



藍住町文化財保存活用地域計画
概要版

令和6年7月
藍住町

計画の目的

様々な変化する社会環境や自然環境の中で、文化財の保存と活用を図り、後世に守り引き継いでいくために、文化財の保存と活用の基本方針及び活動方針である、「藍住町文化財保存活用地域計画」を作成します。

計画の位置づけ

本計画は、文化財保護法に基づき、「徳島県文化財保存活用大綱」を勘案して作成しました。最上位計画である5次藍住町総合計画に基づいた、文化財行政に関する個別計画に位置づけられるものです。

本計画における文化財の定義

本計画では、藍住町でのこれまでの歴史と文化の積み重ねを「藍住町のかたち」と呼びます。この「かたち」を表象するものを「文化財」として捉え、後世に守り引き継いでいきたいと考えています。

そこで、本計画では、文化財保護法や条例に基づく文化財以外のもの、未指定文化財についても、「藍住町のかたち」を表象する、本町の歴史と文化を示す上で重要な「文化財」として定義し、保存・活用を進めます。

歴史と文化を育んだ藍住町の立地と環境

藍住町は、旧吉野川と吉野川に囲まれたデルタに位置し、全域が沖積平野です。標高 1.4m～ 5.17m の、氾濫原、自然堤防、旧河道といった微地形で構成されています。南を吉野川が、町の西端から北端に沿って旧吉野川が流れ、ともに紀伊水道に注いでいます。

そうした地理的条件のもと、度々吉野川の洪水を受けましたが、流通や産業の面では吉野川の恵みを受ける土地でした。そのため人々は水害に備えながら生活を営みました。そして流通面の優位性を活かして阿波の中心地としてのまちが形成され、肥沃な土壌を活かして藍の一大産地となりました。

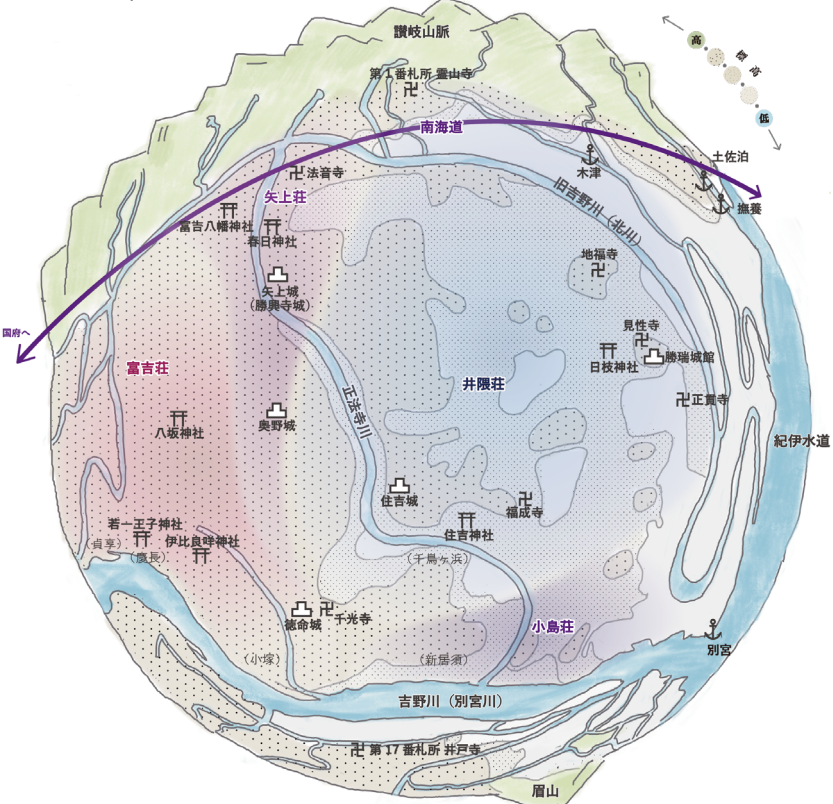
[藍住町の地形図]



藍住町の歴史

古代から中世の藍住町

[魚眼図|藍住町の歴史]



■ 本町に人々が暮らし始めた古代

本町で人々のくらしが見られるのは古代からです。奈良時代前期には米を朝廷に納めたことが確認でき、中期には吉野川沿いの低湿地が開発されました。平安時代には南海道が付近を通り、人々が生活を営みました。源平合戦の際の伝承も遺されています。

■ 繁栄の基盤が形成された鎌倉時代

鎌倉時代以降、本町は複数の荘域に分かれます。町内には 14 世紀代の石造物が散見でき、同時期の瓦が出土します。また、古代から中世にかけて創建された寺院があり、この頃には後に勝瑞が阿波の中心地として繁栄する基盤が形成されていました。

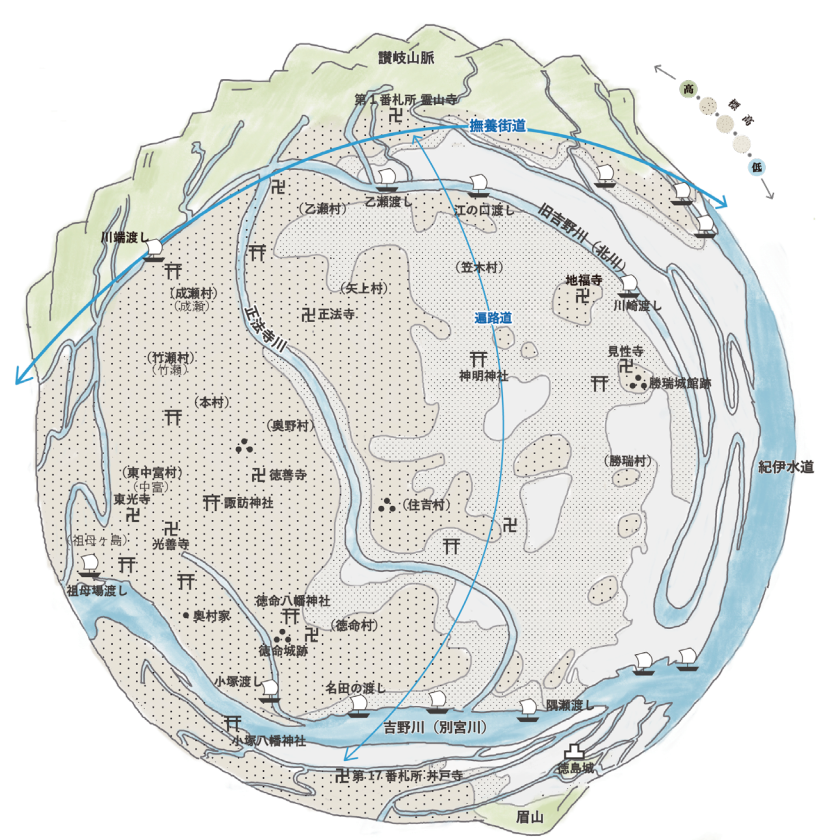
■ 阿波の中心地として栄える勝瑞

室町時代には、阿波国守護細川氏が勝瑞に守護所を置きました。その後、細川氏に代わって台頭した三好氏もまた、勝瑞を本拠としました。室町時代には、本町の勝瑞が阿波の政治・経済・文化の中心地として繁栄しました。当時、勝瑞を中心として河川交通を活用したまちが形成されていました。

■ 勝瑞の衰退と近世への移行

本能寺の変により信長の圧力が無くなると、土佐の長宗我部氏が勝瑞へ侵攻しました。これにより阿波の中心としての勝瑞は終わりを告げました。秀吉による四国平定の後、蜂須賀家政が城地を徳島に定めました。寺院の多くは徳島へ移され、勝瑞は田園地帯となりました。

近世の藍住町



■ 赤松則房と置塩領

阿波一国はほぼ蜂須賀家政に与えられましたが、一部は置塩領として、本町の住吉城に入った赤松則房に割り振られました。置塩領は徳島藩に編入されると、初代藩主夫人於虎の方の化粧領とされました。

■ 藍染料の流通と文化交流

元禄期には本町の藍が諸国に出荷され藍商人は全国に進出しました。藍商人は海上交通の安全や商売繁盛のため神社に石燈籠などを寄進しました。また各地の文化を持ち帰り、阿波おどりなどの徳島の芸能を育てました。

■ 徳島城下の舟運のための新川開通

現在の吉野川は徳島城下の舟運のために新川を掘り抜いたところ水量が増え本流化したといわれています。旧流域は水不足に悩まされたため第十堰が築かれました。

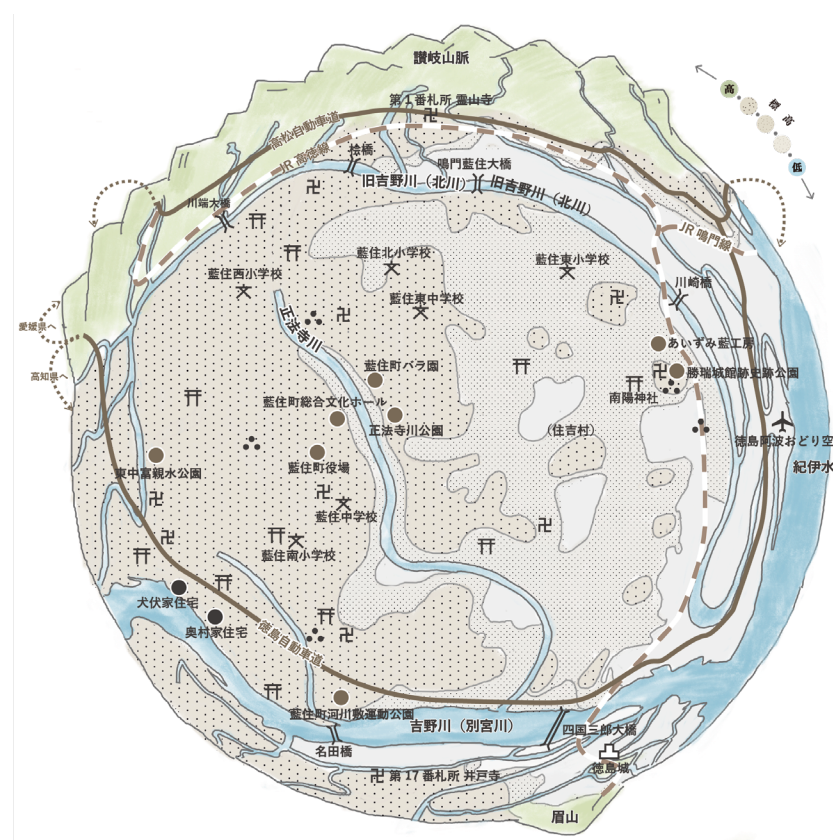
■ 吉野川の功罪

本町は吉野川の氾濫によって多くの災害を被ってきましたが、洪水のもたらす豊かな土壌は良質の藍を育てました。また吉野川は水上交通の大動脈としても重要な役割を担っていました。

■ 讃岐街道と四国遍路のみち

江戸時代には、本町域に阿波五街道の一つである讃岐街道が整備されました。また、徳島城下から井戸寺を経て霊山寺に向かう、四国遍路のルートが本町を通っていました。

近現代の藍住町



■ 町村制の施行

明治 22 年 (1889) に町村制が施行され、藍園村と住吉村が成立しました。昭和 30 年 (1955) に藍園村と住吉村が合併し、藍住町が誕生しました。

■ 藍作からの転換

明治期に入り化学染料が輸入されると、藍の売れ行きが悪くなりました。すでに多角経営を行っていた藍商人は急速に事業転換していきました。一方、藍作農家は良質な土壌と藍作のノウハウを活かしてダイコンと阿波たくあんを栽培・生産しました。昭和 40 年 (1965) 頃からはニンジン栽培が盛んになり、全国有数の生産地となりました。年間の流量の差が大きい吉野川は水資源の開発が難しく、米作が避けられてきましたが、明治期に灌漑用水が整備され、米作にも乗り出しました。

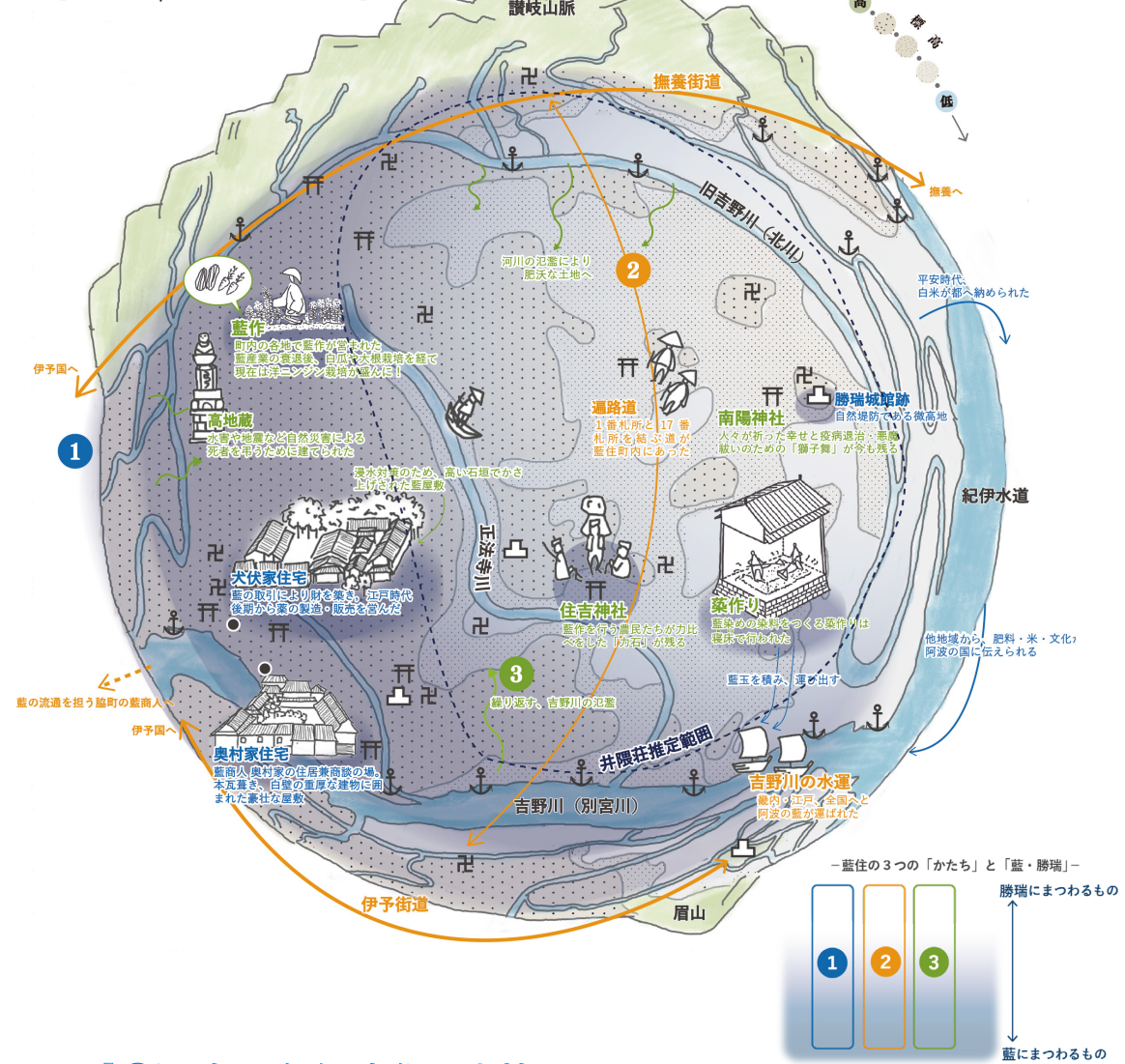
■ 農村から都市型の景観へ

藍住町が誕生した昭和 30 年 (1955) の人口は 10,544 人でしたが、昭和 40 年 (1965) には最低人口の 9,726 人を記録しました。しかし徳島市のベッドタウンとして宅地開発が進み、昭和 60 年 (1985) には人口 22,619 人となりました。人口増加に伴い、小学校は2校から4校に、中学校は1校から2校となりました。また各種工場の進出、徳島自動車道の開通、大型ショッピングセンターの建設等、藍住町は農村地帯から都市的な姿に変貌を遂げました。

藍住町のかたち

「藍住町のかたち」は、相互に関係しあい「藍」「勝瑞」のキーワードでつながれます。

[魚眼図|藍住町のかたち]



① 阿波の政治・文化の中核

本町は古くから経済力があつた地域で、室町時代には守護所が置かれ阿波の中心として栄えました。また、江戸時代には藍の産地として藩経済を支えました。藍商人の活躍は現在の県内の生活の礎でもあり、阿波の政治・経済・文化の中核を担い続けてきた地域でした。

② 流通・往来による地域の発展

本町は吉野川デルタに位置し、水上交通を媒介として発展しました。また、古代の官道である南海道が付近を通り、江戸時代に整備された讃岐街道が町内を南北に貫きます。本町は水陸交通の要衝に位置し、流通・往来によって発展した地域であると分かります。

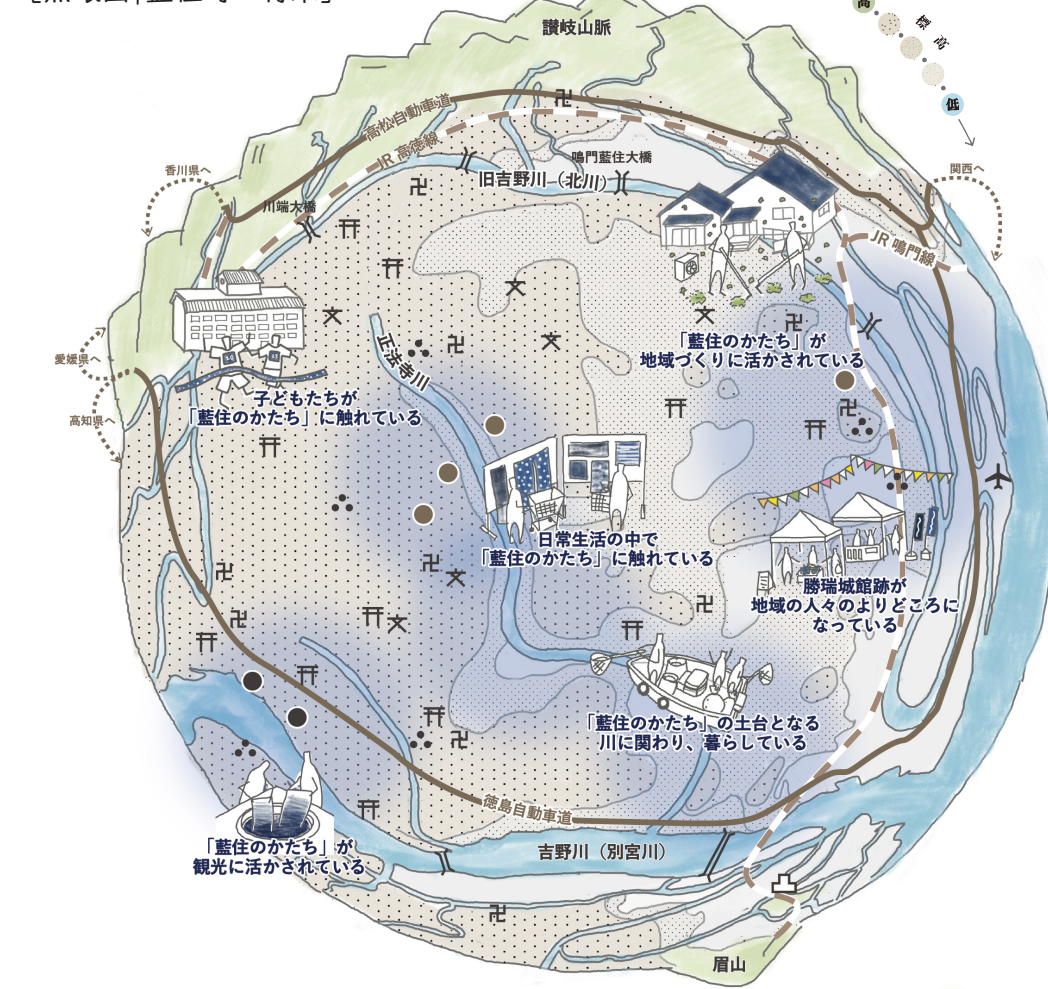
③ 吉野川デルタの生業と人々の生活

吉野川は氾濫によって度々大きな被害をもたらしましたが、そこからは豊かな土壌や豊富な水が得られ、さらに流通等での利活用は地域を豊かにしました。そのため、人々は工夫を凝らしながら災害と共生しました。そこに残る文化財からは地域の景観が垣間見られます。

本計画で目指す将来像

「藍住町のかたち」を表象する「文化財」を後世に守り、引き継いでいくために、次の将来像を掲げます。

[魚眼図|藍住町の将来]



[本計画で目指す将来像]

かたちをつなぎ、育むまち 藍住町
吉野川によって育まれた「藍住町のかたち」を感じ、守り、受け継ぐことで心豊かに楽しく暮らしている

[第1期計画修了時(令和15年度)の保存と活用のイメージ]

- 吉野川の育んだ環境について、多くの人が理解し、興味を持ち、自分たちの暮らす「藍住町」に誇りと愛着を持っている。
- 勝瑞城館跡について調査がさらに進められ、調査の成果を活用した保存・活用が進み、観光や教育に活かされることで、人々が集う地域のよりどころとなっている。
- 藍にまつわる文化財を通して、町民全員が藍に関する文化財の本質的な価値を知っている。また、その価値を尊重しながら現代の産業やまちづくりにも活用され、町民の暮らしの中に「藍」が溶け込んでいる。

文化財の保存・活用の課題・方針・措置一覧表

将来像

かたちをつなぎ、育むまち 藍住町

吉野川によって育まれた「藍住町のかたち」を感じ、守り、受け継ぐことで、心豊かに楽しく暮らし続ける

方向性

方向性1
「藍住町のかたち」を明らかにする

方向性2

「藍住町のかたち」を感じる

方向性3

「藍住町のかたち」を守る

方向性4

「藍住町のかたち」を受け継ぐ

課題

・文化財の類型によって調査分野に偏りや不足がある。

・「藍住町のかたち」の核となる文化財の価値を明らかにし適切に保存と活用を行うための調査が十分でない。

・「藍住町のかたち」の核となる文化財に関するシンポジウム・講座の町民の受講者が少ない。

・案内サインやホームページを活用した情報発信が十分でない。

・日本遺産ストーリーの活用が十分でない。

・子どもたちの歴史・文化への認識が薄い。

・地域の活性化につながる文化財の整備・活用が求められている。

・「藍住町のかたち」を町内外へ伝えるための更なる取組が求められている

・文化財の日常の維持管理体制が整っていない

・文化財指定による保護が進んでいない

・文化財の防災・防犯体制が整っていない

・文化財の保存と活用に関わる担い手が不足している。

・「藍住町のかたち」を活かす取り組みを継続し、発展させる必要がある

・地域で活動する町民や団体との連携が十分でない。

・他市町との広域連携が十分でない。

方針

1-1 不足する類型・地域での調査による文化財の網羅的な把握

1-2 「藍住町のかたち」の核となる文化財調査の実施

2-1 認知度の高い文化財を核にして藍住町の歴史文化を広く伝えることができるしくみづくり

2-2 藍住町の歴史文化についての情報発信に関する取組の強化

2-3 日本遺産ストーリーや「藍住町のかたち」のストーリーで関連する他地域との活発な交流

2-4 学校教育や地域での学習を通し、子どもたちが「藍住町のかたち」に実際に触れ、体験し、学べるきっかけづくり

2-5 文化財の整備によるまちの活性化

2-6 文化財の適切な活用と、まちの魅力増進や観光事業化

3-1 文化財の維持管理体制の充実

3-2 文化財指定による保護の推進

3-3 防災・防犯対策の強化

4-1 郷土愛の醸成、次世代を担う人材の育成

4-2 文化財の保存・活用に関わる人材育成と資金調達

4-3 各種主体が連携して文化財の保存・活用を進めるためのしくみの構築

4-4 広域連携による文化財の保存と活用の推進

措置

- 1 祭り・行事調査
- 2 文化財の見方・調べ方講座の実施
- 3 町民参加型の文化財調査

- 4 勝瑞城館跡調査事業
- 5 奥村家住宅調査・整備事業
- 6 犬伏家住宅調査事業

- 7 勝瑞学講座・勝瑞城シンポジウムの開催
- 8 「藍住町のかたち」を伝える講座の実施
- 9 文化財の案内板、解説板の充実
- 10 「藍住町のかたち」の情報発信事業
- 11 藍のストーリーのPR事業
- 12 藍のふるさと阿波魅力発信事業（連携した取組による日本遺産ストーリーの発信・活用）
- 13 藍のふるさと阿波魅力発信事業（協議会を通じた連携）
- 14 小・中学生が歴史・文化に触れられるイベントの実施
- 15 地域学校協働活動の推進
- 16 勝瑞城館跡保存活用事業
- 17 6次産業化推進事業
- 18 藍住町歴史館「藍の館」（県指定有形文化財「奥村家住宅」）の整備及び運営強化
- 19 犬伏家住宅公開活用事業
- 20 町内文化財周遊ルートの構築

- 21 藍染め製品の販売の促進（「藍」de グルメ」事業）
- 22 藍住町ならではの商品開発の支援
- 23 観光分野における広域連携
- 24 DMO観光推進事業
- 25 文化財の保存に関するマニュアル作成
- 26 住民参加型の文化財パトロール
- 27 文化財の保存・活用に関する相談窓口の設置

- 28 新規指定文化財の掘り起こし
- 29 (仮称) 藍住遺産認定事業の実施
- 30 災害・盗難発生時のマニュアルの作成
- 31 緊急時の文化財の保護のための広域連携
- 32 文化財保存活用地域計画出前授業の実施
- 33 藍文化普及推進事業
- 34 藍住藍復興事業
- 35 ふるさと納税事業
- 36 市民団体の取組を支えるしくみの検討
- 37 観光・産業に関する事業者との連携体制の構築
- 38 友好都市交流事業
- 39 藍のふるさと阿波魅力発信事業（協議会を通じた連携）（措置番号13と重複）
- 40 勝瑞城館跡保存活用事業（関連する他市町との連携）

文化財の保存・活用の体制図

社会教育課を中心に、庁内関係課や組織、文化庁・徳島県、日本遺産の推進協議会など他の市町村、関係団体との密な連携をはかります。また、藍住町民との協働による保存・活用を推進します。

[体制図]



指定等文化財の分布図

[指定等文化財分布図]



- | | | | |
|--|---|--|--|
| <p>1 犬伏家住宅</p> <ul style="list-style-type: none"> ★犬伏家住宅 ●犬伏古松軒製菓所の製菓用具 | <p>3 東光寺境内</p> <ul style="list-style-type: none"> ●東光寺境内イチョウ ●東光寺境内まき | <p>6 千光寺境内</p> <ul style="list-style-type: none"> ●千光寺臥龍梅 ●千光寺境内なぎ ●千光寺境内まき | <p>8 住吉神社境内</p> <ul style="list-style-type: none"> ●住吉神社本殿 ●住吉神社文書 ●住吉神社境内出土古瓦 ●住吉神社の力石 |
| <p>2 奥村家住宅</p> <ul style="list-style-type: none"> ★阿波藍栽培加工用具一式 ●観音庵の星兜鉢 ●野舞台背景用欄間（透かし彫り） ●野舞台背景用襖絵一式 ●奥村家文書 ●見性寺文書 | <p>4 伊比良咩神社境内</p> <ul style="list-style-type: none"> ●伊比良咩神社社殿 ●伊比良咩神社の古面 ●伊比良咩神社御旅所緑泥片岩鳥居 | <p>7 正法寺境内</p> <ul style="list-style-type: none"> ●正法寺本堂 ●聖観音像 ●経机等 ●歌台院、忠英母子印刻の雲形位牌 ●歌台院肖像 ●寺院宛行状 | <p>9 福成寺</p> <ul style="list-style-type: none"> ●福成寺石造地藏菩薩坐像 ●福成寺境内ラカンマキ ●福成寺の阿弥陀三尊種子板碑 ●福成寺の地藏画像板碑 ●福成寺の宝塔 |